

機能毎の病床の状況について

病院名: 宇陀市立病院 医療圏: 東和

※H28年度の列は、別紙1－3「H28年度病床数一覧」の数値を記入してください。

※R7年度、R8年度(2026年度)の列は、今年度の病床機能報告及び様式2の数値を記入してください。

(単位: 床)

			(a) ＜H28年度＞ 許可病床数	＜R7年度＞ 許可病床数	うち、最大使用 病床数 (注1)
一般 病床・ 療養 病床	高度急性期				
	急性期	重症	89床	89床	83床
		軽症			
	回復期		87床	87床	85床
	慢性期				
	休棟中 (今後再開する予定)				
	休棟中 (今後廃止する予定)				
	(合計)(自動計算)		176床	176床	168床
精神病床					
結核病床					
感染症病床					
介護医療院					

→

(b) 将来 (R8/2026年度) 病床数	(b-a) H28年度からの 増減 (自動計算)
	0床
89床	0床
	0床
87床	0床
	0床
	0床
	0床
176床	0床
	0床
	0床
	0床
	0床

(注1)最大使用病床数
・1年間(R6.4.1～R7.3.31)に最も多く入院患者を収容した時点で使用した病床数のことです。

令和7年度 地域医療構想における具体的対応方針

1. 基本情報

病院名：宇陀市立病院

医療圏：東和

2. 地域医療構想の実現に向けた本院の取組について

（１）これまでの地域医療構想や昨今の受領動向の変化、2040年頃を見据えた新たな地域医療構想の方向性を踏まえ、本院が地域で担う役割等について（現状と今後の方向性）

宇陀市立病院は、宇陀地域における唯一の公立基幹病院として、地域住民に身近な急性期医療と回復期の受け皿機能を担っている。特に高齢人口比率が高い地域特性を踏まえ、内科系疾患や整形外科領域の入院医療、一般救急、リハビリテーションを中心に、切れ目のない医療提供を行っている。

地域医療構想に基づく病院間の役割分担としては、重症・高度急性期治療や専門的手術が必要な症例については奈良県立医大附属病院や近隣の高度急性期病院へ速やかに紹介・転送し、当院は急性期治療後の回復期リハビリや在宅復帰支援、慢性期管理を担う体制を強化してきた。

今後は2040年頃を見据え、急性期機能の維持に加え、地域包括ケア病棟等を活用した在宅復帰支援、介護施設・在宅療養患者の増悪時の受け入れなど、「救急?回復?在宅」までを地域で完結するハブ病院としての役割を一層明確化する。加えて、診療所・介護事業所・行政との連携会議や情報共有を通じ、地域全体での患者流れの最適化と医療・介護の一体的提供を推進する。また、訪問診療を地域の重要な医療資源として位置づけ、夜間対応を含む在宅支援を強化することで、地域での療養継続を支える体制を充実させる。

(2) 今後、増加が見込まれる高齢者救急への対応について

高齢者救急の増加に対応するため、当院では救急受入れ体制の安定化と入退院支援の強化に取り組む。具体的には、内科・整形外科を中心とした高齢者急性期疾患の標準的治療体制を維持するとともに、心不全・肺炎・尿路感染・脱水などの高齢者多疾患併存に対して多職種で早期介入する。また、救急搬送後の早期リハビリ開始、栄養・口腔機能評価、せん妄予防などを組み合わせ、入院期間の適正化と在宅・施設への円滑な退院を支援する。近隣消防・救急機関との定期的な連絡会を継続し、地域における救急医療の実効性を高める。

(3) 今後、増加が見込まれる在宅医療需要への対応について

※提供体制強化や体制整備の予定等ありましたら合わせてご記載ください

在宅医療需要の増加を踏まえ、当院は在宅療養患者の後方支援病院としての機能に加え、訪問診療の主体的担い手としての役割を強化する。現在、当院の総合診療科が訪問診療を実施しており、夜間対応も含めた24時間の支援体制を確保している。訪問診療患者数は増加傾向にあり、地域における在宅療養の受け皿として、当院が継続的に訪問診療を担う必要性は今後さらに高まると考えている。今後は、訪問診療体制の安定的な維持・拡充を図りつつ、在宅患者の急変時や増悪時の受け入れ、検査・短期入院による治療、レスパイト入院等を積極的に担うことで、在宅療養の継続を支える。さらに、地域の診療所・訪問看護ステーション・介護事業所・施設等との連携を深め、入院中から退院後の生活を見据えた多職種カンファレンスや情報共有を継続する。これらの取り組みにより、「訪問診療+後方支援」の両輪で在宅医療を支える中核病院として、地域包括ケアシステムの推進と在宅復帰の促進に貢献していく。

(4) 今後の医療従事者の確保や医療提供の維持に向けた方策、検討の状況について

※医療DX、タスクシフト・シェア等の取組状況がありましたら合わせてご記載ください

医師の確保に向け、奈良県立医科大学等との連携による医師派遣・研修受入れを継続するとともに、働きやすい職場環境整備を進める。看護職やコメディカルの確保・育成については、将来の地域医療を担う人材の裾野を広げる観点から、看護師・薬剤師・理学療法士・作業療法士等の学生を積極的に受け入れ、実習・教育を行っている。学生が地域医療・在宅医療の実際を学べる環境を提供することで、当院や宇陀地域で働く意欲の醸成につなげ、将来的な人材確保に結び付けていく。さらに、高齢の入院患者が多く介護を必要とする患者が増加していること、ならびに労働人口の減少という地域課題を踏まえ、介護・看護を支える人材確保の新たな取り組みを進めている。具体的には、奈良県立宇陀高等学校、HAYAMA International Language school、奈良介護福祉中央学院と連携認定を結び、外国人留学生を看護助手・介護福祉士として受け入れている。これは、留学生の学びと就労を支援しながら地域の介護力を高めていく協定であり、病院の医療提供体制を支えると同時に、地域全体の介護・医療基盤の強化にもつながる、病院と地域双方の力になる取り組みである。

また、医療提供の維持のため、タスクシフト・タスクシェア（特定行為研修修了看護師の活用、コメディカルの専門性発掘、業務分担の見直し）を推進し、限られた人員で質を落とさない診療体制を目指す。加えて、電子カルテや「宇陀けあネット」を活用した情報共有の効率化、オンライン診療の検討等の医療DXを進め、職員負担の軽減と連携強化を図りながら、地域で必要な医療機能を持続的に提供していく。

3. 各領域の対応状況について

※以下[1]～[15]の領域の今後の方向性について記入してください。
※選択肢については、あてはまるものにチェックをつけてください。

[1]がん

[1-1]当該領域について対応しているか？

[1-2]手術の実施

消化器：(女性)生殖器

[1-3]化学療法の実施

実施している

[1-4]放射線治療の実施

実施していない

[1-5]拠点病院等の指定

指定されていない

[1-6]特記事項

がんの観血的治療が必要な場合は、その進行度や臓器に応じて、患者や家族の希望を考慮し、済生会中和病院、奈良県立医科大学附属病院、天理よろづ相談所病院へ紹介している。治療後の経過観察を患者が希望する場合は、当院で行っている。

[2]心筋梗塞等の心血管疾患

[2-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[2-2]24時間心血管疾患の急性期医療の実施

—

[2-3]緊急心臓カテーテル検査及び治療の24時間365日実施

—

[2-4]経皮的冠動脈形成術もしくは経皮的冠動脈ステント留置術の実施

—

[2-5]心疾患に対する外科手術の実施

—

[2-6]冠動脈バイパス手術の実施

—

[2-7]急性大動脈解離の手術の実施

—

[2-8]大動脈瘤手術の実施

—

[2-9]心血管疾患等への早期リハビリ

—

[2-10]特記事項

急性心筋梗塞の患者は主に奈良県立医科大学附属病院、高井病院、天理よろづ相談所病院へ紹介している。急性期を脱し病状が安定した際には、引き続きの入院が必要であれば当院の地域包括ケア病棟へ転院、外来通院可能であれば当院循環器内科で診療をしている。R7年度に心大血管リハビリテーションIを取得し心血管疾患患者及び心不全患者のリハビリテーションを実施している。

[3]脳卒中等の脳疾患

[3-1]当該領域について対応しているか？

[3-2]脳梗塞に対するt-PAによる脳血栓溶解療法の実施

※実施していない

[3-3]脳梗塞に対する脳血管内治療(経皮的脳血栓回収術等)の実施

※実施していない

[3-4]脳出血（くも膜下出血を含む）への対応

対応していない

[3-5]くも膜下出血に対する脳動脈クリッピング術

※実施していない

[3-6]くも膜下出血に対するコイル塞栓術

※実施していない

[3-7]脳出血に対する開頭血腫除去術

※実施していない

[3-8]脳血管疾患等への早期リハビリ

実施している

[3-9]特記事項

脳血栓溶解療法や脳外科手術が必要な患者は、病状に応じて済生会中和病院、天理よろづ相談所病院へ紹介している。病状が安定した際には当院の地域包括ケア病棟へ転院し在宅復帰を支援、外来通院可能であれば、当院脳神経内科で診療をしている。

[4]救急医療

[4-1]当該領域について対応しているか？

[4-2]救急告示病院の指定を受けているか？

受けている

[4-3]大腿骨骨折への対応

[4-4]病院群輪番制への参加

参加している

[4-5]小児科病院二次輪番体制への参加

参加していない

[4-6]特記事項

桜井市、磯城郡、宇陀市、曽爾村、御杖村地域の二次救急医療を担う輪番制病院として、引き続き救急医療体制の充実に努めていく。

[5]リハビリ

[5-1]当該領域について対応しているか？

[5-2]回復期リハビリ病棟入院料届出の有無

無し

[5-3]上記が有りの場合、届出病床数

—

[5-4]訪問リハビリの実施

実施している

[5-5]通所リハビリの実施

実施している

[5-6]今後の方向性

県下最大の2病棟87床の地域包括ケア病床を活用し、積極的な内科リハビリ、整形外科術後リハビリを行い、在宅復帰に向けた支援をしている。急性期病棟に入院した患者も入院早期にリハビリを開始しADLの向上と自宅退院の支援を行っている。また、2020年4月からは、訪問リハビリを開始し、現在理学療法士3名体制で運営を行っている。

[6]在宅医療

[6-1]当該領域について対応しているか？

※ここで言う在宅医療は「在宅医療の提供」「他医療機関等との連携」「後方支援」を含む概念とします。

[6-2]在宅療養支援病院の届出の有無

有り

[6-3]在宅療養後方支援病院の届出の有無

無し

[6-4]特記事項

在宅医療を担う開業医が減少し、併せて高齢化が進んでいる。将来、当院での在宅医療を担う必要性が増すと予想している。

そのため、在宅医療に係る専門部署を設け、総合診療科医師による在宅診療を行っているが、今後の需要増に向け体制強化を目指していく。

[7]訪問看護

[7-1]病院看護師が当該領域について対応しているか？

対応していない

[7-2]同一法人内に訪問看護ステーションをもっているか？

ない

[7-3]上記でありの場合、その名称

[7-4]特記事項

現在、市内に訪問看護ステーションがあるため、当院からの訪問看護は計画していない。引き続き既存の訪問看護ステーション、ケアマネージャー等との連携を密に図り、在宅医療に貢献し、地域包括ケアシステムの構築に努める。

[8]ACP（アドバンス・ケア・プランニング）への取組

[8-1]「適切な意思決定支援に関する指針」（「適切な看取りに対する指針」）について
定めている

[8-2]特記事項

「宇陀市立病院、人生の最終段階・終末期における医療・ケアの考え方と行動指針」を作成し、運用している。
2021年度以降は、特に透析患者に対し、看護師による「終末期の意思決定支援」についての取り組みを開始している。

[9]小児医療

[9-1]当該領域について対応しているか？

[9-2]小児入院医療管理料の算定

算定していない

[9-3]新生児特定集中治療室管理料の算定

算定していない

[9-4]医療的ケア児を受け入れている

受け入れている

[9-5]特記事項

奈良県東部地域における小児科医師が在籍する医療機関は当院のみであるため、小児医療全般を当院が担っている。具体的には、小児科診療のほか乳幼児健診、乳幼児・小児ワクチン接種を行っている。

併せて、専門外来として小児科非常勤医師による「発達相談外来」、「小児アレルギー外来」を開設するとともに、総合診療科医師による医療的ケア児の訪問診療を行うなど幅広い医療を提供している。

また、2026年度からは行政と連携し、院内に病児保育室を開設する予定である。

[10]周産期医療

[10-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[10-2]分娩の取扱い

—

[10-3]ハイリスク分娩管理加算の算定

—

[10-4]特記事項

2025年度から産婦人科常勤医師を採用し、従来の婦人科領域に加え、産科領域の診療を開始した。
ただし、常勤医師1名のみであるため分娩については対応できないが、妊娠の診断及び妊婦健診中の
一時対応などを中心に診療を行っていく。

[11]災害医療

[11-1]当該領域について対応しているか？

[11-2]災害拠点病院の指定を受けているか？

受けていない

[11-3]DMAT指定病院の指定を受けているか？

受けている

[11-4]EMIS（広域災害救急医療情報システム）への参加

参加している

[11-5]特記事項

DMAT指定病院として、災害医療に備えた体制を推進するため隊員の増員や設備の充実を図っている。2024年度からは最大2部隊の派遣ができる体制整備を行った。

[12]へき地医療

[12-1]当該領域について対応しているか？

[12-2]へき地医療拠点病院の指定を受けているか？

受けている

[12-3]特記事項

奈良県東部地域のへき地医療支援を強化するため、2021年度にへき地医療拠点病院に指定され、市内へき地診療所2カ所及び御杖村へき地診療所へ医師派遣を行っている。

2025年度からは、御杖村へき地診療所及び曽爾村へき地診療所への内科医師派遣を新たに行っている。

また、東部地域の各市村（千陀市・山添村・曽爾村・御杖村）による「奈良県東部地域医療協議会」を設立し、へき地が抱える医療の諸問題について行政機関が連携し、特に医療従事者不足や財源不足について関係機関への協力を求めていることとしている。

[13]医師の研修・派遣機能（臨床研修の実施等を含む広域的な医師派遣の拠点としての機能）

[13-1]当該領域について対応しているか？

[13-2]基幹型臨床研修病院の指定を受けているか？

受けていない

[13-3]協力型臨床研修病院の指定を受けているか？

受けている

[13-4]臨床研修協力施設であるか？

該当しない

[13-5]専門研修の基幹施設であるか？

該当しない

[13-6]専門研修の連携施設であるか？

該当する

[13-7]特記事項

現在、協力型臨床研修病院として、内科、整形外科、総合診療科では研修医及び専攻医の受入れを行っている。さらに、奈良県緊急確保枠医師の研修受入れも行っている。

[14]医師の働き方改革

[14-1]医師の宿日直許可の取得状況

取得済み

[14-2]上記で一部の場合、その範囲

取得済み

[14-3]特記事項

医師の宿日直による労働時間管理については、労働基準監督署の宿日直許可を得ている。また、質の高い医療提供体制の確保や医師の負担軽減のためのタスクシフト／シェアの担い手の確保という観点から、医師事務作業補助者の増員・育成を強化している（10：1看護体制では最高の医師事務作業補助体制加算20：1を取得）。
また、院内研修による管理者をはじめとした医療従事者全体の意識改革・啓発にも取り組んでいく。

[15]看護職員の研修機能

[15-1]特定行為研修の指定研修機関の指定申請予定はあるか？

ない

[15-2]特定行為研修の協力施設の申請予定はあるか？

ない

[15-3]特記事項

—